

SEQUIMINI ME

セ ク イ ミ ニ メ

No.41

WINTER 2011



桃山学院大学チャペル・ニュース

目 次

巻頭言「愛あるところ神あり」	チャプレン 松平 功	1
「SCA の復活!!」	SCA部長 法学部4回生 立川 千晶	2
聖書の花園 (24)「柳一平和・豊穰・繁栄」	金城 盛紀	6
(本学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授)		
～ 聖書を読んで…感想文 ～		
「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」 (マタイ福音書5章3節)	国際教養学部 1回生 田村 真美	8
「求めなさい。そうすれば与えられる」(マタイ福音書7章7節)	社会学部 社会学科 3回生 中村 那於	8
「エバの心の奥底」(創世記2章～4章)	社会学部 社会学科 2回生 落水 晴香	9
<キリスト教センター関連等諸行事> (2011年4月～2011年12月)		10

聖書の言葉

「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。
何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。」
(フィリピの信徒への手紙4:6)

表 紙

雪のチャペル、桃山学院大学チャペル (聖救主礼拝堂)

撮影：古武静江 (本学キリスト教センタースタッフ)



「愛あるところ神あり」

チャプレン（大学付牧師） 松平 功

「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

（マタイ福音書 25：40）

『靴屋のマルチン』というお話があります。そのお話はロシアの文豪トルストイが書いた童話で、「愛あるところ神あり」という副題がつけられています。ストーリーは主人公である靴屋のマルチンが、妻と子どもに先立たれて失望の日々を送っているところから始まります。ある日、神父さんが修理のために傷んだ革の聖書を置いていきます。マルチンは、その聖書を読み始めるのです。クリスマスが近づいたある夜、イエス・キリストがマルチンの夢の中に現れて、「明日、あなたのところに行くから、待っていなさい」と語ります。次の日、マルチンは夢で聞いたイエス・キリストの言葉を思い出し、窓の外をわくわくしながら窺っていました。そうすると窓の外に、寒そうに震えながら雪かきをしているおじいさんを見つけます。マルチンはそのおじいさんを家に迎え入れて、温かいお茶をご馳走するのです。おじいさんは、「ありがとう、ありがとう」と何度も笑顔で言いながら帰っていきました。

今度は、赤ちゃんを抱いて軒先にたたずむ貧しそうな女性に目をとめます。その女性は雪の降る中でコートも着ずに震えています。マルチンは出て行って、その親子を家に入れて、焼きたてのパンと温かいシチューを食べさせてあげるのです。そして、親子の帰り際に亡くなった奥さんの形見のコートをあげるのです。

その後、再び窓の外に目をやると、おばあさんの籠から少年がリンゴを盗って逃げるところが見えました。マルチンはその少年を追いかけ、おばあさんの所まで連れ戻し、少年と一緒に謝ってあげて、少年のためにおばあさんからりんごを買ってあげました。

長い一日が終り、迎りはもう暗くなりましたが、夢に出てきて「あなたのところに行くから、待っていなさい」と約束したイエス・キリストはとうとう現れませんでした。マルチンはがっかりしましたが、いつものようにランプを灯し仕事場のあと片付けをして、そして棚から聖書を取り出しました。

すると突然、後ろから誰かが「マルチン、わたしが今日お前のところに行ったのがわかったかい？」と囁きました。後ろを振り返るとイエス・キリストの姿がありました。しかしその姿は、すぐに朝に出会った雪かきのおじいさんの姿へと変わり、また今度は赤ちゃんを抱えた貧しそうな女性に変わり、そして赤ん坊に変わり、りんご売りのおばあさんや少年へと次々に変わっていき、ついにその姿は闇の中に消えていきました。そして、このストーリーの最後は「マルチンの心は喜びでいっぱいになりました」という言葉で締めくくられるのです。

トルストイはこのストーリーを、マタイによる福音書 25 章 40 節にあるイエス・キリストの言葉を基に創作しています。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」少々理解し辛いイエス・キリストの言葉を解説するようにして、『靴屋のマルチン』のストーリーを通して、

トルストイは「イエス・キリストのご降誕をお迎えるクリスマスの日に、自分たちの周りにいる人々に心を向けて手を差し伸べることが、実はイエス・キリストをお迎えることでもあるのだ」語っているのです。わたしたちもこのクリスマス・シーズンを契機に周りの人々に目

を留めてみませんか。自分の周りにはいる家族や学生や教職員、或いは地域の困っている人々への関心を深めることを通して、イエス・キリストへの思いも深まり、温かく深い関係性の中で聖夜を迎えることができると思います。メリークリスマス！



SCA (Student Christian Association) の復活 !!

SCA 部長 法学部4回生 立川 千晶

SCA は開学当初から桃山学院大学の代表的な文化サークルとして活動していました。1996年頃から活動停止となりましたが、今年4月から再び活動することができました。新生SCAでは毎週木曜日の昼休みにチャペル2階の会議室で聖書の学びを行ったり、聖歌や賛美の練習を行ったりしています。また、毎週火曜日の昼休みに行われるバイブルランチにも参加し、チャプレンのお話を聞きいて、一緒にお昼ご飯やお菓子を食べながら聖書について語り合っ

ています。このようにSCAの仲間と共に聖書を学び、賛美し、そしてキリスト者として信仰を高め合うことは、わたしたちの学生生活を豊かなものにしてくれるだけでなく、忙しい毎日に埋もれてしまいそうなきでも心にゆとりを持たせてくれます。今はまだSCAの部員は10人前後で少ないですが、これからはもっと部員を増やして、バイブルキャンプをしたり、学祭にも参加したりと活動範囲をどんどん広げたいと思います。



柳 — 平和・豊穰・繁栄

きん じょう せい き
金 城 盛 紀 (当大学元文学部教授・神戸女学院大学名誉教授)



セイヨウシロヤナギ
 (Wikimedia Commonsより)

リバヤナギ (Common Willow、*S. acmolphylla*) の2種で、現在もイスラエルの川辺や泉の近辺に自生している。低木または小高木で、雌雄異株。初冬に小さな花を尾状でつけ、実は初夏に熟する。秋の終わりには落葉する。

柳は成長が早く器具などの用材となり、また、古くから解熱、鎮痛、殺菌の薬として使用された。アスピリンも柳の樹皮の鎮痛・解熱作用から発明された。

しかし、詩篇で言及される柳はコトカケヤナギ (ユフラテスポプラ) (*Euphrates Poplar, Populus euphratica*) である。この木はヤナギ科ヤマナラシ (ポプラ) 属で、落葉する小高木。西アジアから中国西部にかけて分布する。

柳は西洋の文学では悲哀と関連づけられてきたが、聖書ではどうであろうか。

平和・豊穰の木

初日には立派な木の実、なつめやしの葉、茂った木の枝、川柳の枝を取って来て、あなたたちの神、主の御前に七日の間、喜び、祝う。
 (レビ記 23:40)

ヤナギ科ヤナギ属には350種ぐらいもあるが、種間雑種が得意。聖書に出てくる柳はセイヨウシロヤナギ (European Willow、*Salix alba*) とトガ

仮庵祭の祭儀に柳の枝も使われた。仮庵祭はイスラエルの三大祭りの一つで最大の祝祭である。もともと秋の収穫を祝う祭りであったが、ユダヤの民がエジプトを脱出して荒野で余儀なくされた仮小屋生活を記念する祭りとなった。「立派な木の実」はオリーブかシトロンの実、「しげた木の葉」はミルトスであろう。人々は、ナツメヤシや柳の枝も交えて束にして、詩篇 118 を歌いながら、東西南北に振りまわした。これは、この世の終わりに神の支配がなされ、豊穰が約束されることを示唆する。柳はミルトスなどと同様に平和・豊穰の到来を示す吉祥である。

彼がそてつの木の下や
 浅瀬の葦の茂みにふせると
 川が押し流そうとしても、彼は動じない。
 川辺の柳は彼を包む。

(ヨブ記 40:21 - 22)

「彼」は、エジプト語で「水の牛」を意味するベヘモットを指す。ベヘモットは、海の怪獣レ비아タンとともに、神に敵対し、野生動物を圧倒する神秘的野獣で、混沌を象徴するとされる。動物だけでなく植物もこの怪獣を助ける。川が押し流そうとしても柳がかばう。平和・豊穰の柳までこの怪獣を守るのである。ヨブはこのような強豪な怪物を打ち負かすことができるであろうか。いかに「無垢で正しい人」(同 1:1)でも人間は弱い。

再生と繁栄

わたしは渴いている地に水を注ぎ
 渴いた土地に流れを与える。

あなたの子孫にわたしの霊を注ぎ
あなたの末にわたしの祝福を与える。
彼らは草の生い茂るなかに芽生え
水のほとりの柳のように育つ。

(イザヤ書 44:3 - 4)

これは救済の託宣である。

イザヤ書 43:2 - 4 はこう述べている——「あなた（イスラエル）の罪のためわたしを苦しめ あなたの悪のために、わたしに重荷を負わせた」。罪と悪は国土を荒地にした。しかし、神は罪を消去する——「あなたの背きの罪をぬぐい…」(同 25 節)。神は、この荒廃した不毛の大地に水を注ぎ、流れを与えると約束するのである。土地の渴きは人間の罪と悪の結果であり、またそのイメージであろうが、水は神の愛をあらわす。愛の恵みによって草は生い茂り、柳は育つ。草木の繁殖は、イスラエルの子孫の繁栄を意味する。柳はそのような含意のある恵みの木なのである。

天災と人災によってわが東北の広い国土が荒地と化した。この詩句は、悲しみ苦しんでいる多くの被災者たちにも再生と繁栄の希望を与える、と言えば、聖句の身勝手な俗解と非難されるであろうか。続く 5 節は異邦人も救済される可能性を示唆していると思われるのだが。

また、その地の種を取って苗床に蒔き
苗を豊かな水のほとりに柳のように植えた。
(エゼキエル書 17:5)

二羽の大鷲がレバノンに飛来し、その地の種を播き、苗を植えた。それは見事なぶどうの木となった。「水のほとりに柳のように植えた」という表現が立派に育ち生い茂る希望を抱かせる。しかし、もう一羽の大鷲の方に根を向け、若枝をその鷲の方に伸ばして、結局しておれてしまう。ユダ王国の滅亡を寓意しているが、具体的な解釈は諸説紛々としているようである。

コトカケヤナギ

バビロンの流れのほとりに座り
シオンを思って、わたしたちは泣いた。

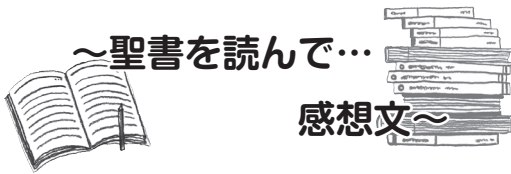
豎琴は、ほとりの柳の木々に掛けた。
(詩篇 137:1 - 2)

バビロニア捕囚において苦難を味わうユダヤの民は神の都シオンを憶れて涙する。彼らをあざける支配者によってシオンの歌を歌えと言われても、豎琴を柳の木々に掛けて拒否するほかない。利用されるのが柳となっているのは、この木が身近にあるからというだけではなさそうだ。柳の木となっているのは、そのような行為が捕囚の悲哀と、そして、いつの日にか民の憧憬を実現させる願望をにじませていることを示している。シオン讃美の喜びの歌を捕囚の身であざけられて歌うのを拒絶するのは、神の都で喜び踊るのを祈願しているからなのだ(詩篇 48 参照)。



コトカケヤナギ (Wikimedia Commons より)

なお、この柳の木は和名ではコトカケヤナギとなっているが、すでに触れたように、植物学的にはポプラの一種 (Euphrates Poplar, *Populus euphratica*) とされている。セイヨウシロヤナギと混同されてきたが、混同の一因は、このポプラは柳のような葉で成長し、木が大きくなると丸みを帯びてポプラらしくなる生態にあるとされる。現地での呼称も両者は混同し、日本語でも柳、英語でも willow と呼ばれたりする。植物分類学のリンネ (生物を属名と種名を表す二名法を確立した) でさえコトカケヤナギをシダレヤナギ (Weeping willow) と誤認して、その学名を詩篇の柳にちなんで *Salix babylonica* (バビロンの柳) とした。この影響は日本の多くの書物に見られる。本年 (2011) 出版 400 年を記念する欽定訳では willows と訳されている。アメリカの新改訂標準訳 (NRSV) やイギリスの新英訳聖書 (NEB) でも willows となっているが、または poplars と注をつけている。



「心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである」

(マタイ福音書5章3節)

国際教養学部 1回生 田村 真美

これはキリスト教学の最初の授業で、初めて聞いたイエスの言葉でした。私の家はクリスチャンでもなく、キリスト教のことにはまったく興味がなかったのですが、この言葉を聞いてイエスの生き方とか、なぜ上層階級の人々に逆らってまで下層階級の人たちのために生涯を尽くしたのかだと、知りたくなりました。この「心の貧しい人」というのは、経済的な問題だけでなく、周りの人々から嫌われ、蔑まれ、自分の心の中の幸福な感情が薄れ、何か感情の飢えや悲しみを心の中に抱いている人のことではないかと私は思いました。

昔の階級制度がいかに厳しいものだったのかは私には想像できません。でも、きっと上層階級の人には自分が賢い、自分が1番だという考えが強く、だから下層階級の、人から嫌われるような仕事についている人のことを殴っても、罵っても、罪にはならないと思っていたのだろうとおもいます。そんな上層階級の人たちによって虐げ、蔑まれて心も体もボロボロになった人々をイエスは助けようとしたのです。まず、私にはそのような人を目にしたとき同情心は湧いてきたとしても、その人に手を差し伸べて少しでも救えるような言葉をかけてあげられないです。なぜ、イエスが上層階級の人たちに刃向ってまで、下層階級の人たちに尽くしたのかまったくわかりません。でも、きっとイエスは上層階級の人たちの下層階級の人たちに対する言動や行いを見て、下層階級の人々の貧しく細々とした生活をこれ以上苦しめたくないと思ったから、立ち向かって行ったのではないかと思います。

たくさん苦しみ、飢えで死にそうになりなが

らも、上層階級の人々からの虐げにも耐え、子どものためなら自分の食べ物でも差し出すような、そんな人々であるから、イエスは心の貧しい人々こそ天の国に行くべきだと、考えたのではないかと思います。天の国とは、人には言えないような怒りや悲しみを日々感じながらも、一切言葉には出さずに日々を暮している者こそが行ける場所なのだ、と感じました。すべての事を下層階級の人たちに任せて自分は楽をしてばかりで、自分の代わりに人から嫌われるような仕事を引き受けてくれる人々に対して蔑むようなことをする人は、いくら神を信仰していても天の国には行けないのだということを感じました。私には、イエスの言葉はととてもわかりにくく、ユーモアにとんだ言葉が多いと思うのですが、そんなユーモアのある言葉の中にもしっかりと芯のある言葉ばかりだ、と感じました。

「求めなさい。そうすれば与えられる」

(マタイ福音書7章7節)

社会学部 社会学科3回生 中村 那於

私は梅花高校というミッションスクールに通った。そしてこの言葉は学校の聖句でもあった。毎日讃美歌を歌い、聖書を読み、聖句を唱え、学ぶ中で私は自分の中でのイエスをわかることができたと思うのである。私の中でのイエスは辛く、貧困な者にこそ神は存在し、又それを自覚した者こそ神を感じる事ができると説いたと考えている。

だからこそ、「求めなさい。そうすれば、与えられる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」という言葉はつまり自分の自らの状況を理解し、自分は不完全であり、貧しい（この貧しいという意味は金銭的や肉体的貧しさだけでなく心の貧しさも含まれていると考える）と自覚することこそ、求め・門をたたき行為である。そして自覚したからその瞬間から神の御心、恩恵をうけることができると解釈する。この恩恵をうけるというのは決してお金が入ってくるや名声が得られるといった物質的な意味だけでなく、心が満たされるという意味も含まれていると考えられる。だからこそ後文12節の「人

にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という言葉で、そのことを言及しているのではないだろうか。

人は誰でも、優位に立ちたがる。見栄をはってしまう。そして辛い状況から目を背ける生き物であると私は考えている。そして常に誰かをけ落とそうとし、お互いに支えあう気持ちを忘れてしまうのであろう。だからこそ直視することを恐れ、気づかないフリをし続ける。イエスはこの行為こそ心の貧しさだと言いたいのではないだろうか。率先して嫌なことや辛いことを受けることで、他者の気持ちをくみ取れることができる。また、自分が辛いと口にすることで、逆に助けてもらふこともあるだろう。

この文章では、求めるだけ、叩くだけではなく、自分もまた無意識のうちに誰かの求めに答えて、誰かの門を叩く音に気づき開けているのだと思う。だからこそ自分が求めることも、門を叩くこともできる。与えられ、開いてくれる存在を知っているから。この慈愛の精神こそイエスが私たちに言いたかった言葉ではないだろうか。

私の中でイエスの言葉は決して優しいものではないと思っている。しかし、だからこそ人は支え、愛することを求めていることが分かった。彼は鞭を与える一方で、行動を起こした者にはどんな形であれ救いとして返ってくることを教えてくれているからである。イエスの言葉は現代でも当てはまる。現代に生きる私たちは困難に陥っている人を見て見ぬフリをして、自分が優位だと思っていないだろうか。辛いと感じながらも見栄をはっていないだろうか。自分の立場や状況を認めてこそ他人を思いやれる心、つまり慈愛の精神に気づくことができるのであろう。

「エバの心の奥底」

(創世記2章～4章)

社会学部 社会学科 2回生 落水 晴香

今回は、アダムの次に神によって創られた人であるエバの心の奥底を私なりに解釈することにした。まず、エバが神によって創られた理由は「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助

ける者を造ろう」と、アダムが独りにならないためのパートナーとして創られたのだ。エバの肉体はアダムのあばら骨の一部から抜き取った骨を基にして創られた。アダムからすればエバは正に自分の肉体の一部であるので、愛しいものであるのだろう。しかし、私がもしエバの立場だとすると、アダムの一部であるということを楽ししいとは思えないだろう。確かに肉体は自分の意思で動かすことが出来るが、あくまでも自分の動かしているこの肉体はアダムの一部なのだ。完全に自分自身というわけではない。自分が神によって1から創られたものではなく、アダムの一部から出来ているとういことには何んだか凄く劣等感を感じる。

神が人を創ろうと思った当初から、「人が独りになるのは良くないから、対になる“男”と“女”の2人を創ろう」と思い、2人を創ったとしたらエバも何も劣等感を感じなかっただろう。しかし神はどこまでも男(アダム)が一番なのだ。エバを創った理由も全てアダムの為なのだ。しかも完成形の人間(アダム)の、特に無くなっても困らなそうな体の一部からエバを創った。1から創ったアダムに比べ、神がエバを創る時の手抜き感が否めない。

まだエバが創られて間もないころは、善悪の知識の木の実を食べていないので、そのようなことは考えてもなかったのだろうが、エデンの園を追放されてからは、先に述べたような、エバの心の黒い部分が出てくるのではないだろうか。神に善悪の知識の実を食べたのがバレた時も、アダムは自分の愛する骨の骨、肉の肉であるはずのエバが全て悪い、食べさせられた、というような口ぶりだったし、神がエバに与えた罰(子を産む苦しみ)よりもアダムに与えた罰(食べ物を得ようとする苦しみ)の方が、心なしか軽い気がする。食べ物を得ようと苦しむのは、パートナーであるエバも同じだからだ。

聖書にはあっさり描かれているが、エデンの園を追放されてからカインとアベルが産まれるまで、2人は善悪の知識が付いた分、苦しい思いをたくさんしてきたのではないだろうか。特にエバは、アダムよりも神に愛されていなかったことを思うと、とても辛かったのではないだろうか。

＜キリスト教センター関連等諸行事＞（2011年4月～2011年12月）

4月 1日	2011年度始業礼拝 教職員役職者就任・新任教職員歓迎祝福式
2日	新入生歓迎記念礼拝 入学式
4～22日	パイプオルガン講習申込受付
5日	国際ワークキャンプ実行委員会
6日	キリスト教センター運営委員会
7日	インド異文化ボランティア体験セミナー解団式・感謝礼拝
7日	サッカー部リーグ戦感謝・激励礼拝
8日	春学期始業礼拝
9日	フレッシュヤーズキャンプ結団式
9～11日	フレッシュヤーズキャンプ
11日	交換留学生交流会の祈り（ヨハネ館） 震災支援大学部会（ベテロ館）
15日	大学創立記念日式典
16日	第101回チャペルコンサート
18～22日	第25回国際ワークキャンプ・インドネシア申込受付開始
20日	職員故西山和信氏逝去一周年記念式
25日	第25回国際ワークキャンプ・インドネシア第一次選考（筆記試験）
26日	新学院旗掲揚（祝福・祝別）式
26～27日	第25回国際ワークキャンプ・インドネシア第二次選考（面接）
27日	ベルギー市民マラソン派遣団結成式・ユニフォーム祝福・授与式 国際ワークキャンプ実行委員会
28日	国際ワークキャンプ・インドネシア参加者発表
5月 1日	桃山学院大学、立教大学アメリカンフットボール部第36回定期戦記念礼拝
6日	建学の精神
9日	中国ビジネスキャリアコースランチ会
10日	バイブルランチ 建学の精神
12日	建学の精神 国際ワークキャンプ事前研修①
13日	建学の精神
16日	国際ワークキャンプインドネシア語研修①
17日	バイブルランチ
18日	建学の精神 キリスト教センター運営委員会
19日	国際ワークキャンプ事前研修② 国際ワークキャンプ懇親会
23日	国際ワークキャンプインドネシア語研修②
24日	バイブルランチ
25日	第102回チャペルコンサート
26日	国際ワークキャンプ事前研修③
27日	チャペル見学（八尾北高校） チャペル見学（だいせん聴覚高等支援学校）
30日	国際ワークキャンプインドネシア語研修③ 宗教活動協議会（昭和町）
31日	バイブルランチ
6月 2日	国際ワークキャンプ事前研修④
3日	建学の精神 キリスト教講演会（金永秀氏）
4～10日	チャプレン ボランティアセンター出向（茨城県日立市）
4日	ワレン・ローリング氏記念墓地礼拝（服部霊園内）
6日	国際ワークキャンプインドネシア語研修④

- 9日 国際ワークキャンプ事前研修⑤
- 13日 建学の精神
国際ワークキャンプインドネシア語研修⑤
チャペル見学（りんくう湘南高校）
- 14日 建学の精神
- 15日 チャペル附属聖歌隊 新入聖歌隊員任命・祝福礼拝
キリスト教センター運営委員会
- 16日 国際ワークキャンプ事前研修⑥
- 17日 建学の精神
共励会（昭和町）
- 18日 卒業記念礼拝・卒業記念書授与式（台湾留学生）
- 20日 建学の精神
チャペル見学（ブルーミントン交換生）
国際ワークキャンプインドネシア語研修⑥
- 21日 国際ワークキャンプ石井看護師来日・歓迎会
- 22日 建学の精神
- 23日 国際ワークキャンプ事前研修⑦
- 25日 第103回チャペルコンサート
- 27日 国際ワークキャンプインドネシア語研修⑦
建学の精神
- 28日 建学の精神
- 29日 ACUCA 会議（青山学院大学）
- 30日 国際ワークキャンプ事前研修⑧
- 7月1日 建学の精神
- 2日 国際ワークキャンプ調理実習（堺青少年の家）
- 4日 プール学院大学礼拝説教（プール学院大学）
チャペル見学（東百舌高校）
国際ワークキャンプインドネシア語研修⑧
- 5日 建学の精神
- 6日 国際ワークキャンプ実行委員会
- 7日 国際ワークキャンプ事前研修⑨
- 8日 チャペル見学（関西福祉科学大学高校・堺西高校）
- 10日 大学同窓会 社会人ワークキャンプ・インドネシア結団式
- 11日 国際ワークキャンプインドネシア語研修⑨
2011年度秋学期派遣・夏期短期海外研修壮行礼拝
夏学期日本語プログラム始業礼拝
- 12日 バイブルランチ（ゲスト・岩城聰氏）
- 13日 キリスト教センター運営委員会
- 14日 第25回国際ワークキャンプ・インドネシア結団式・およびユニフォーム祝福・授与式
- 15～17日 全国チャブレん会（宮城学院大学・仙台）
- 18日 国際ワークキャンプインドネシア語研修⑩
- 21日 チャペル見学（和歌山県立粉河高校・府立緑風冠高校）
- 27日 春学期終業礼拝
- 28日 建学の精神
- 29日 夏期日本語プログラム修了礼拝
- 8月1日 交換留学生修了礼拝
- 2～3日 キリスト教同盟関西研究会（京都）
- 7～8日 第25回国際ワークキャンプ研修合宿
- 19日 アメリカンフットボール部 Thundering Legion, Lions
ユニフォーム祝福・戴冠式
- 22日 第25回国際ワークキャンプ・インドネシア出発
- 9月8日 第25回国際ワークキャンプ・インドネシア帰国
- 15～17日 ACUCA プレミーティング（関西学院大学）
- 24日 2011年度9月卒業式記念礼拝 卒業証書・学位記授与式
- 26日 秋学期始業礼拝
宗教活動協議会（和泉キャンパス）

27日	秋学期交換留学生始業礼拝
29～30日	キリスト教同盟研修会（東北学院大学 吉田出席）
10月 4日	バイブルランチ
6日	チャペル見学（国府小学校）
7日	チャペル見学（布施北高等学校）
11日	バイブルランチ
12日	チャペル見学（鶴山台南小学校）
15日	教育後援会全国支部長会議（ベイタワー）
18日	チャペル見学（伊賀私立栢植小学校）
	バイブルランチ
19日	チャペル見学（苜部小学校）
	キリスト教センター運営委員会
21日	キリスト教学会研究会（講師：永井清彦氏）
22日	桃山学院大学同窓会会議
25日	バイブルランチ
26日	学生表彰式
27日	チャペル見学（北池田小学校）
11月 1日	バイブルランチ
2日	第104回チャペル・コンサート
8日	バイブルランチ
10日	チャペル見学（池上小学校）
11日	チャペル見学（光明台北小学校）
	キリスト教講演会（岩田靖夫氏）
15日	バイブルランチ
26日	学院逝去者記念礼拝
27日	アーチェリー部50周年逝去記念
29日	バイブルランチ
30日	聖アンデレ日礼拝
	クリスマス・イルミネーション点灯式
12月 1日	チャペル見学（黒鳥小学校）
5日	第25回国際ワークキャンプ報告会・解団式・懇親会
6日	バイブルランチ
10日	クリスマス・コンサート（第105回チャペル・コンサート）
13日	バイブルランチ
15日	桃山学院大学クリスマス礼拝
16日	オルガン講習生発表会
19日	多言語クリスマス礼拝

～お知らせ～

BIBLE LUNCHのお誘い

学期間中の毎週火曜日、お昼休み（12：40～13：10）にバイブル・ランチを開いています。昼食を食べながら、聖書やキリスト教のお話をします。どうぞ、友人を誘ってご参加ください。場所は、キリスト教センター集会室です。お菓子や飲み物もあります！

近隣教会紹介ブース

チャペル後方に「近隣教会紹介ブース」なるものを作っています。近隣のキリスト教会のパンフレットを置いていますので、関心のある方はお持ち帰りください。

チャペル・ウェディング

本学チャペルでの結婚式は、随時受付中です。関心のある方は、キリスト教センター事務局までお問い合わせください。

† 聖公会とは †

私たち桃山学院大学の建学の精神は、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）です。教派としては日本聖公会に所属しています。聖公会は、英国宗教改革から始まり、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、太平洋など世界中の国々に広がり、信徒数7千万人を越えております。このような世界的な組織の中で、日本聖公会は重要な位置を占めています。日本においては約350の教会、約5万人の信徒を擁し、キリスト教の宣教活動に加え、さまざまな教育・医療・社会福祉などの事業を全国各地で行っております。

私たちの姉妹校としては、立教、立教女学院、聖路加看護、名古屋柳城、平安女学院、プール学院、松蔭女子学院、神戸国際などがあります。聖路加国際病院、聖バルナバ病院もよく知られています。私たちの大学は、世界に広がる国際的なネットワークの中で、その一員として、「キリスト教精神」（自由と愛の精神）に基づき、「世界市民の育成」をめざして努力しております。

◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第41号ができあがり、ご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。このチャペル・ニュースを通して、チャペルへの興味を持っていただければと願っております。

(チャプレン 司祭 ヤコブ 松平 功)

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース 第41号

2011年12月発行

発行人 松平 功
編集人

発行所 桃山学院大学チャペル（聖救主礼拝堂）

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131 FAX 0725-54-3210



桃山学院の「キリスト教精神」

「自由と愛の精神」

桃山学院の学院章には、“SEQUIMINI ME”（我に従え）という言葉が刻まれています。それはイエスの弟子アンデレがイエスに従ったように、「自由と愛の精神」をもっていきることです。使徒パウロが書いています。「あなた方は、自由を得るために召しだされたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。」(ガラテヤの信徒の手紙5章13節)

自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とはひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに仕えあいながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、単にキリスト教の立場だけでなく、すべての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想をめざしてチャレンジし続けていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神」であり、「世界の市民」への道なのです。

桃山学院大学チャペル（聖救主礼拝堂）

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131

FAX 0725-54-3210